

**令和4年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書**

団体名 八代市 （都道府県： 熊本県）

1.当該地域の情報(令和4年3月末現在)

地域の課題	◆当初は既存日本語教室の人材不足による空白地域化への対策を課題としていたが、地域の実情やニーズを把握する中で、 ・技能実習生をはじめとした、外国人市民の孤立化を防ぐこと ・日本語学習意欲の有無に左右されず、誰もが気軽に参加でき、交流活動をベースにしつつ、本市での基本的な生活の仕方を楽しく学習できる内容を構築すること ・教室参加者に八代市の理解を深めてもらいファンになってもらうこと ・日本人市民が日本語教室を通して多文化共生への理解を深めること ・相互理解、相互学習の場として機能することを念頭に置き、八代版の教室設置に取り組まなければならないこと が課題として見えてきた。 ◆教室運営の中核を担う人材の発掘・育成も重要な課題である。 ◆事務局である市職員の人事異動が教室活動に影響を及ぼすことのないよう、それまで培ったノウハウを継承していかなければならない。 ◆持続可能で且つ発展的な日本語教室を目指すには、八代版の多文化共生のまちづくりの方向性を示す「やつしろ国際化推進ビジョン」に沿った ・交流を通じた相互理解、相互学習できる教室活動をコーディネートする能力 ・自立した日本語教室を行う運営能力 ・異なる背景や立場を持つ人々の話し合いをファシリテートする能力 などを備えた人材を地域で発掘し、育成を図る必要がある。
在住外国人数 外国人比率	在住外国人数:2,390 人 外国人比率:1.94%（総人口:123,052 人）
在住外国人の 状況	【主な国籍】 ベトナム、フィリピン、中国、カンボジア、インドネシア、タイ、韓国、ミャンマー、ネパール、米国 【在留資格】 技能実習2号口、特定技能1号、技能実習3号口、永住者、特定活動、技術・人文知識・国際業務、日本人の配偶者等、技能実習1号口、定住者、特別永住者 【滞在年数・在留期間などの状況】 生産年齢人口の減少により、農業、製造業、建設業を中心に外国人技能実習生が多いことから、1～3年で帰国する外国人が多い。また、近年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、特定技能の在留資格者が増加している。
在住外国人の 日本語教育の現状	本プロジェクト以外では、ボランティア団体「地域日本語支援やつしろクラブ」が小規模で外国人市民向け日本語教室を開設している。 主な受講者は、技能実習生、外国語指導助手(ALT)など。

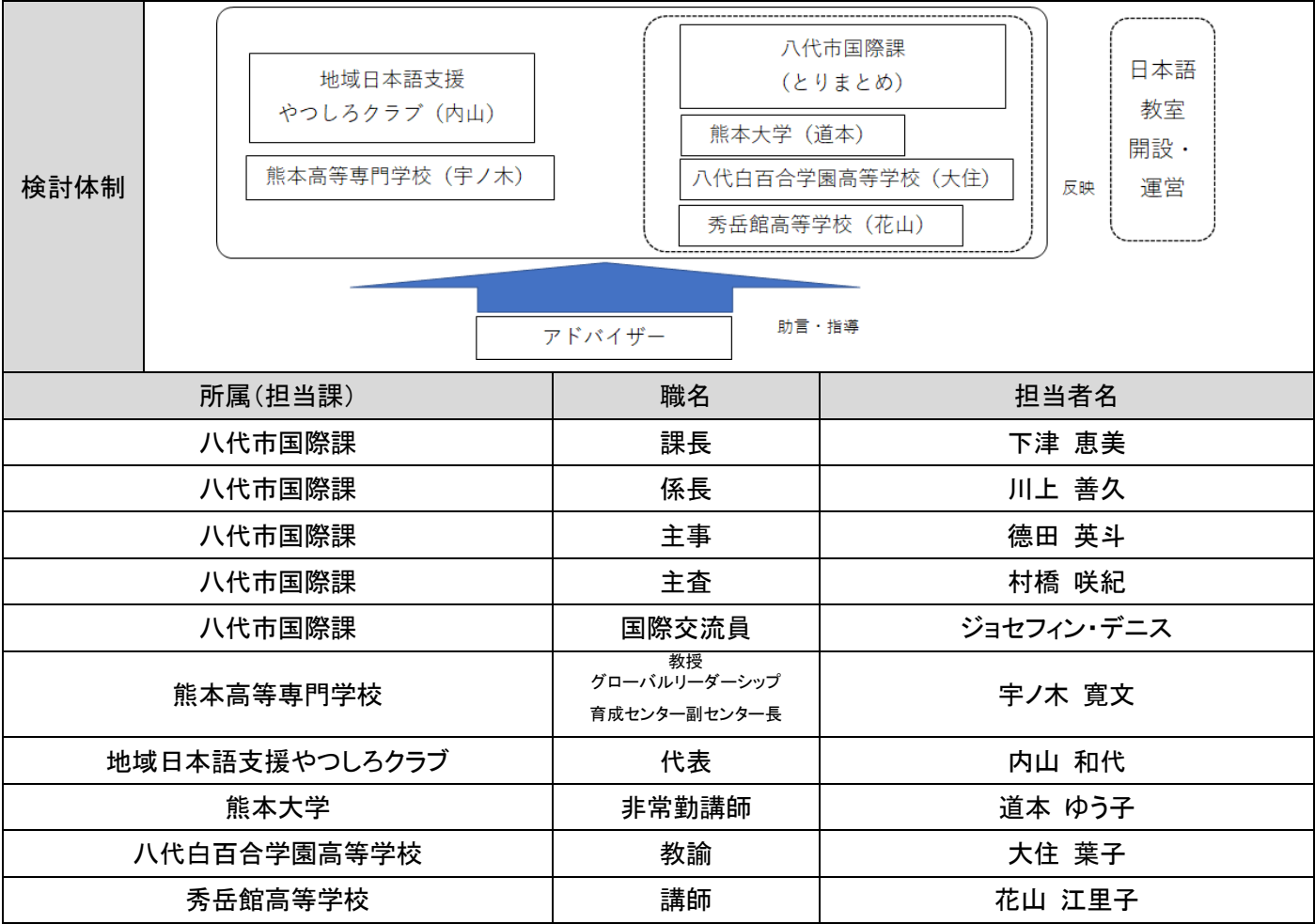
2.事業の内容

本プログラム取組年数	4年目
事業の目的	・日本人市民と外国人市民の交流拠点となる日本語教室の設置により、やつしろ国際化推進ビジョンに掲げる多文化共生のまちづくりの推進や目標とする都市像である「世界の笑顔が咲く国際都市やつしろ」の実現を目指す。 ・事業実施にあたっては、初期に設定した以下の方針のもと、本事業に取り組む中で見てきた地域の課題等も踏まえながら、八代版日本語教室の自走化に向けて、やつしろ国際協会が主体となった運営体制の構築に取り組む。 (1) 八代市に住む外国人市民が自信をもって生活できる力が身につく教室 (2) 日本人市民も外国人市民も互いが学び合える多文化共生の推進を担う教室 (3) 外国人市民が気軽に通いやすい教室 (4) 八代の魅力(文化やイベントなど)が学べる教室
事業の概要	【日本語教室の運営】 ・月1回のペースで定期開催することで、日本語教室の認知度向上を図った。 ・さまざまなカリキュラムによる活動を通して、日本語学習の支援者としての関わり方や運営面についての経験蓄積に取り組んだ。 ・各回の教室開催後にコーディネーターによる意見交換の場を設け、教室活動の改善点等について協議し、次回以降の活動に反映させるようにした。 ・年度初回の教室のテーマを「教室で行いたい活動(カリキュラム内容)」とし、その結果を年間活動に反映させることで、参加者のモチベーション維持を図った。 ・教室運営の負担軽減を図るため、各回開催後に事務局スタッフで準備～会場設営～片付けなど運営に関する振り返りの場を設け、運営面の効率化に取り組んだ。 【ボランティア人材(日本語交流サポーター)の育成】 ・ボランティア人材(日本語交流サポーター)がやさしい日本語や傾聴スキルなど教室活動でのコミュニケーション手段について学ぶ養成講座を実施し、スキルアップを図った。 ・日本語教室後にふり返りの時間を設け、できたこと・できなかったことを共有することでボランティア人材(日本語交流サポーター)の育成に取り組んだ。 【教室コーディネーターを担う人材の発掘と育成】 ・教室コーディネーターへのステップアップの第一歩として、サポーターが進行役を担う際の心理的なハードルを下げ、負担軽減につながるよう、活動ごとに標準的な活動案を作成した。 【教室カリキュラムの充実・標準化】 ・活動から見えてきた反省点や参加者からの意見等を踏まえ、次回以降の活動内容の改善に取り組んだ。 ・活動ごとに標準的な活動案を作成した。 【市民等への参加促進】 ・多文化共生への理解を深めるとともに、日本語教室の活動を知り、活動への参加を促す機会として、外国人とのコミュニケーション手段である「やさしい日本語」について学ぶ講座を開催した。 【アドバイザー及びコーディネーター会議による協議】 ・事業の進捗や今後の取組等について共有し、教室の運営体制等について協議を行った。 【文化庁主催情報交換会への参加・先進団体視察】 ・文化庁が主催する情報交換会に出席し、コーディネーターのスキルアップを図るとともに、他自治体とのネットワーク構築に取り組んだ。 ・先進団体を視察し、オンラインの活用や日本語教室の運営手法等について情報収集を行った。 【やつしろ国際協会との連携】 ・次年度以降、安定的に教室運営を行うため、やつしろ国際協会が主体となり運営することを念頭に置き、協会と連携を図りながら事業を推進した。 ・やつしろ国際協会の Facebook、会員への周知メールのほか、SNSを活用した外国人コミュニティへの情報発信、連携先団体、企業、教育機関等の協力による参加呼びかけなど、さまざまな方法で周知を行い、教室の認知度向上、新規の外国人参加者の獲得に取り組んだ。
事業の対象期間	令和4年4月～令和5年3月

前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	○日本語交流サポーター養成講座(3回実施) 第1回「オリエンテーション」及び講演「多文化共生のまちづくりとサポーターに求める役割」 参加者 13 名 第2回 地域日本語教育とやさしい日本語～外国人とのコミュニケーションポイントを学ぼう～ 参加者 15 名 第3回 傾聴スキル向上ワーク 参加者 17 名 日本語教室の開催にあたり、教室で外国人参加者の日本語学習をサポートするボランティア人材「日本語交流サポーター」を募集し、やさしい日本語や傾聴スキル等について学ぶ養成講座を開催。年度途中で興味を持った方が申込みをされるなど、広報誌や SNS での日本語教室等の活動紹介によって、徐々に地域に浸透している様子があった。 ○日本語教室「にほんご交流ひろば」(3回実施) 第1回 7月(外国人8名、サポーター16名) 第2回 11月(外国人17名、サポーター18名)、 第3回 12月(外国人11名、サポーター等24名) ※当初5回の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により1月、2月開催の回が中止 日本語教室には技能実習生を中心に様々な分野で活躍する外国人に参加いただいた。また、サポーターは、回を重ねるごとに参加者が増え、日本語交流サポーターとして登録いただいている方に限らず、小学生から70代まで幅広い年代の方々に参加いただき、毎回、充実した活動を行うことができた。 ○やさしい日本語講座(1回実施) 第1回 関係機関を対象として開催 参加者 約 60 名 ※市民や関係機関等の職員、本市職員向けとして「やさしい日本語講座」を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民向け講座は中止とした。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	下津 恵美	八代市国際課	課長	全体コーディネート(事務統括)
	川上 善久	八代市国際課	係長	全体コーディネート(事務主査)
	徳田 英斗	八代市国際課	主事	全体コーディネート(事務主査)
	村橋 咲紀	八代市国際課	主査	全体コーディネート(事務補助)
	ジョセフィン・デニス	八代市国際課	国際交流員	助言
	宇ノ木 寛文	熊本高等専門学校	教授 グローバルリーダーシップ 育成センター副センター長	分析、助言
	内山 和代	地域日本語支援 やつしろクラブ	代表	助言
	道本 ゆう子	熊本大学	非常勤講師	教材・カリキュラム編成、教室運営体制検討
	大住 葉子	八代白百合学園高等学校	教諭	教材・カリキュラム編成、教室運営体制検討
	花山 江里子	秀岳館高等学校	講師	教材・カリキュラム編成、教室運営体制検討
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	関口 明子	公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)	会長	継続(4年目)
	吉田 聖子	公益財団法人川崎市国際交流協会	評議員	継続(4年目)
	八木 浩光	一般財団法人熊本市国際交流振興事業団	常務理事	継続(4年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



八代市	国際課	国際交流員	ジョセフィン・デニス
地域日本語支援やつしろクラブ	—	代表	内山 和代
熊本高等専門学校	—	教授 グローバルリーダーシップ 育成センター副センター長	宇ノ木 寛文
熊本大学	—	非常勤講師	道本 ゆう子
八代白百合学園高等学校	—	教諭	大住 葉子
秀岳館高等学校	—	講師	花山 江里子
外国人材受入企業・団体、監理団体	—	—	—
地元企業、公共機関など	—	—	—

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和4年 5月	■コーディネーター会議(5/13)	・今年度の教室活動の進め方検討	
令和4年 6月	■日本語教室「にほんご交流ひろば」 (6/5、6/26)	・日本語教室開始直前のサポーターミーティング ・日本語教室での活動支援、助言、終了後のサポーター振り返り、シェアリング	
令和4年 7月	■アドバイザー・コーディネーター会議 (7/21) ■日本語交流サポーター養成講座 (7/24)	・今年度の取組検討 ・養成講座講師、助言、ワーク支援	★オンライン ・昨年度の取組振り返り ・事業計画への助言
令和4年 8月	■日本語教室「にほんご交流ひろば」 (8/7) ■市職員対象「やさしい日本語」講座 (8/26)	・日本語教室開始直前のサポーターミーティング ・日本語教室での活動支援、助言、終了後のサポーター振り返り、シェアリング ・「やさしい日本語」講座講師	
令和4年 9月	■日本語教室「にほんご交流ひろば」 (9/11) ■市職員対象「やさしい日本語」講座 (9/15) ■先進地視察(9/16)	・日本語教室開始直前のサポーターミーティング ・日本語教室での活動支援、助言、終了後のサポーター振り返り、シェアリング ・「やさしい日本語」講座講師	
令和4年 10月	■日本語教室「にほんご交流ひろば」 (10/2) ■コーディネーター会議(10/31)	・日本語教室開始直前のサポーターミーティング ・日本語教室での活動支援、助言、終了後のサポーター振り返り、シェアリング ・教室活動の内容検討	
令和4年 11月	■日本語教室「にほんご交流ひろば」 (11/13) ■アドバイザー・コーディネーター会議 (11/13) ■コーディネーター会議(11/29)	・日本語教室開始直前のサポーターミーティング ・日本語教室での活動支援、助言、終了後のサポーター振り返り、シェアリング ・今年度の取組の振り返り(中間)、意見交換 ・養成講座の実施内容検討	★来訪 ・今年度の事業進捗 ・今後の取組に関する助言
令和4年 12月	■コーディネーター会議(12/16) ■日本語教室「にほんご交流ひろば」 (12/18)	・教室活動の内容検討 ・日本語教室開始直前のサポーターミーティング ・日本語教室での活動支援、助言、終了後のサポーター振り返り、シェアリング	

令和5年 1月	■コーディネーター会議(1/6) ■日本語教室「にほんご交流ひろば」(1/15) ■市民対象「やさしい日本語」講座(1/28)	・教室活動の進め方検討 ・日本語教室開始直前のサポーターミーティング ・日本語教室での活動支援、助言、終了後のサポーター振り返り、シェアリング ・「やさしい日本語」講座講師 ・標準的な活動案に対する助言	
令和5年 2月	■日本語教室「にほんご交流ひろば」(2/12) ■日本語交流サポーター養成講座(2/18) ■市民対象「やさしい日本語」講座(2/25) ■標準的な活動案作成	・日本語教室開始直前のサポーターミーティング ・日本語教室での活動支援、助言、終了後のサポーター振り返り、シェアリング ・養成講座講師、助言、ワーク支援 ・「やさしい日本語」講座講師 ・標準的な活動案に対する助言	
令和5年 3月	■アドバイザー・コーディネーター会議(3/3) ■コーディネーター情報交換会(3/6)	・コーディネーター情報交換会出席 ・今年度の取組の振り返り	★オンライン ・今年度の日本語教育に関する取組振り返り ・4年間の活動総括 ・日本語教室自走に向けた助言

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称		にほんご交流ひろば					
外国人参加者について		[国籍]ベトナム 25 名、インドネシア 11 名、フィリピン 10 名、タイ 6 名、アメリカ 5 名、中国 4 名、カンボジア 4 名、スリランカ 2 名、カザフスタン 2 名、チュニジア 1 名、イギリス 1 名、マレーシア 1 名、ロシア 1 名、ネパール 1 名、パキスタン 1 名、カナダ 1 名 [属性]技能実習生、外国語指導助手、留学生、定住者など、在留資格に関係なく、様々な分野の方に参加いただいている。					
参加者数 (内 外国人数)		受講者 76 名 支援者 50 名 (サポーター47 名、コーディネーター2 名、日本語指導者 1 名)					
開催時間数		総時間 13 時間			内訳 1.0 時間 × 1 回 1.5 時間 × 8 回		
目標		日本語による交流を中心とした体験型の教室を実施することで、教える・教えられるといった関係性ではなく、参加者が楽しみながら日本語を学ぶ場とする。					
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2022 年 6 月 5 日(日) 14:00～15:00	1.0	八代市役所 多目的室	13	「にほんご交流ひろば」の活動内容を定める	「にほんご交流ひろば」のカリキュラムをもとに、どのような活動をしたいかを話し合う	日本語指導者 1 名 コーディネーター2 名 サポーター30 名
2	2022 年 6 月 23 日(日) 14:00～15:30	1.5	八代市役所 多目的室	23	「七夕」について学ぶ	・サポーターが七夕について説明 ・願いごとを短冊に書いて笹に飾りつけ ・全員で「たなばたさま」を合唱	日本語指導者 1 名 コーディネーター2 名 サポーター24 名
3	2022 年 8 月 9 日(日) 14:00～15:30	1.5	八代市役所 多目的室	4	い草や畳のことを学ぶ	・い草農家の方が講師となり、い草の栽培や畳の制作について説明 ・い草を使った置物づくり	日本語指導者 1 名 サポーター14 名
4	2022 年 9 月 14 日(日) 14:00～15:30	1.5	八代市役所 多目的室	7	ごみの分け方・捨て方を学ぶ	・市担当課の職員が講師となり「燃えるごみ・不燃ごみ」について説明 ・グループでごみの分別ゲームを体験	日本語指導者 1 名 コーディネーター2 名 サポーター13 名
5	2022 年 10 月 2 日(日) 14:00～15:30	1.5	八代市役所 多目的室	9	自分の国のイベントについて話す	・八代全国花火競技大会を紹介 ・自分の国のイベントについて話す	日本語指導者 1 名 コーディネーター2 名 サポーター12 名
6	2022 年 11 月 13 日(日) 14:00～15:30	1.5	八代市役所 周辺	10	八代のまちを散策する	・ミッションシートをクリアしながら市内を散策 ・ミッションは写真ミッションとタイムミッションを準備	日本語指導者 1 名 コーディネーター2 名 サポーター14 名

7	2022 年 12 月 18 日(日) 14:00～15:30	1.5	八代市役所 多目的室	19	年末パーティーを楽しむ	・参加者が出し物を披露 ・参加者でビンゴゲームを楽しむ	日本語指導者 1 名 コーディネーター 2 名 サポーター 16 名
8	2023 年 1 月 15 日(日) 14:00～15:30	1.5	八代市役所 多目的室	16	お正月の過ごし方について話す	・お正月の過ごし方について参加者同士で話す ・高校生による書道パフォーマンス ・書初めに挑戦する	日本語指導者 1 名 コーディネーター 2 名 サポーター 10 名
9	2023 年 2 月 12 日(日) 14:00～15:30	1.5	八代市役所 多目的室	15	「ひな祭り」について学ぶ	・サポーターが「ひな祭り」について説明 ・おひなさまの折紙を作る ・グループでかるたを楽しむ	日本語指導者 1 名 コーディネーター 2 名 サポーター 13 名

【主な活動】



6/26 「七夕」について学ぶ
外国人参加者が「七夕」のことを質問



1/15 お正月の過ごし方について話す
書初めに挑戦



2/12 ひな祭りについて学ぶ
グループでかるたを体験

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	コロナ禍により計画通りに教室活動ができず、サポーター、コーディネーター、事務局のそれぞれの経験が不足していたことから、様々なテーマで教室を定期開催し、自走化に向けた経験、ノウハウの蓄積に取り組んだ。
--------------------	---

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
日本語交流サポーター養成講座	令和 4 年 7 月 24 日(日) 令和 5 年 2 月 18 日(土)	日本語教室で学びのサポート役を担う「日本語交流サポーター」を養成する講座を開催。 ・7月24日(日) 16名受講 内容:「やさしい日本語」と「傾聴」スキルについて学ぶ 対象:新規でサポーター登録を希望される方 昨年度途中にサポーター登録をされた方 昨年度受講済みの方で、復習を行いたい方 ・2月18日(土) 9名受講 内容:異文化体験ゲームと今年度の活動振り返り 対象:日本語交流サポーター登録者
「やさしい日本語」講座	令和 4 年 8 月 26 日(金) 令和 4 年 9 月 15 日(木) 令和 5 年 1 月 28 日(土) 令和 5 年 2 月 25 日(土)	市民や市職員を対象に、外国人とのコミュニケーションツールとして有効な「やさしい日本語」について学ぶ講座を実施。日本語教室についても紹介し、教室活動への理解促進に取り組んだ。 市職員対象 ・8月26日(金) 39名受講 ・9月15日(木) 40名受講 市民対象 ・1月28日(土) 9名受講 ・2月25日(土) 16名受講

先進地視察	令和4年9月16日(金)	県内の先進団体である一般財団法人熊本市国際交流振興事業団を訪問し、日本語教室の開催状況やオンラインの活用に関するヒアリングを実施した。
-------	--------------	---

【主な活動】



2/18 日本語交流サポーター養成講座
理想のサポーター像について発表



2/25 やさしい日本語講座
参加者同士で「やさしい日本語」、「やさしくない日本語」のワーク

5. 今年度事業全体について

進捗状況	新型コロナウイルス感染症の影響で、先進地視察など一部予定を変更したのもあったが、日本語教室「にほんご交流ひろば」の定期開催を軸に概ね予定どおりに事業を進めることができた。
事業推進にあたり 問題点と対応策	・教室開催の際の事前準備のほとんどを事務局で行っていたため、サポーターが受け身になっていた。 ・サポーターの主体性を促すため、以下に取り組んだ。 開催前の準備、終了後の片付けを行ってもらう。 開催前に一か所に集まり、活動内容や注意事項などを共有するミーティングを行う。 教室終了後に自身の活動の振り返り(できたこと、うまくできなかったこと)を行い、サポーター内で共有する。 主体性を持って取り組んでもらうことで、サポーター自身のスキル向上とモチベーション維持につながるものとする。
成果	・教室の定期開催によって、サポーター、コーディネーター、事務局それぞれが経験を積むことができ、回を重ねるごとに活動面でのサポーターの成長を感じることができた。 ・各回終了直後、コーディネーターと行う運営面での振り返りにおいて、その内容を踏まえ改善を行いながら、自走に向けた安定的かつ効率的な教室運営の基礎をつくることができた。 ・定期開催による教室の認知度向上によって、外国人参加者、サポーターの新規獲得につながった。 ・次年度以降、サポーターが進行役を担う際の心理的なハードルを下げ、負担軽減につながるよう、活動ごとに標準的な活動案を作成した。 ・Web の申込フォームを活用したことで、参加者への連絡、リマインドを容易に行うことができるようになった。
地域の関係者との 連携による効果	・ボランティア団体や学校関係者、地元企業、監理団体等が開催案内の周知、参加呼びかけ等で協力していただくことで、新規の外国人参加者の獲得につながっている。 ・サポーターとして高校生の参加が見られるようになり、これが将来を担う人材獲得にもつながるものと考えている。また、保護者世代への本事業への関心や理解の広がりが期待できる。 ・地元の行政機関や外国人受入企業との連携で、外国人就労者を対象とした生活情報等に関する出前講座「くらし安心セミナー」や、日本人市民が技能実習生の職場を見学し交流する「職場見学会」などを開催し、地域の多文化共生を推進する機会となった。

コーディネーターの 主な活動	①事業に関する協議(15H) ②日本語教室の準備、運営、支援等(30H) ③サポーター養成に関する活動(10H) ④標準的な活動案に対する助言(10H) ⑤情報交換会への参加(4H)
アドバイザーの 主な助言	・サポーターに進行役を担っていただく場合、協力的な方すべてに適性があるわけではないという点に注意が必要。同時にサポーターに手を挙げてくれた積極的な外国人参加者に対しては、日本語レベルの問題はあるものの、それを上回るプラスの面があることも忘れてはならない。 ・サポーターが運営側に携わるとなると、継続的な参加が必要になること、事前準備がいることなどをあらかじめ伝えておく必要がある。 ・サポーターに進行役を担っていただくのであれば、ボランティアの範囲やどこから有償とするかを明確化する必要がある。 ・「やつしろ国際協会」の事務局機能は行政職員が担っており、人事異動で切れ目ない事業継続に不安がある。しかしながら、これをマイナスと捉えず、多文化共生の地域づくりは全庁的に取り組む案件として、日本語教育活動への理解と支援体制を広げていく機会とすることが大切である。 ・本プログラムを活用している間に、他のプログラム実施団体と情報交換し、ネットワークを作っておくと、プログラム終了後の教室運営に必ず役立つ。 ・楽しいだけではなく、学びがあるとリピーターの参加につながる。 ・教室に参加し、その後帰国した技能実習生等とネットワークを構築し、情報発信を行うことができるになれば、その方がインフルエンサーとなり八代のファンを増やすことにつながる。
今後の課題	・持続可能な教室運営の体制構築 ・日本語教室の更なる認知度向上 ・サポーターのモチベーション維持 ・教室運営を担う人材の発掘、育成 ・日本人市民の外国人在住者に対する多文化共創意識への改革
今後の予定	・「やつしろ国際協会」が主体となった教室運営の体制づくりに取り組む。 ・引き続き、外国人コミュニティと連携し、SNSを活用した継続的な周知に取り組む。また、参加した方に協力をお願いし、知人等に教室活動のことを紹介してもらうなど、口コミによる広報にも取り組む。 ・外国人参加者が誘い合って参加できるような内容のテーマを検討する。 ・外国人参加者とサポーターが気軽にメッセージカードを交換したり、サポーターのリクエストに外国人参加者が友人を誘って応えるなど、相互のやり取りの方法を増やし、参加者同士の親密度を上げることで、モチベーション維持につながるような工夫をする。 ・教室コーディネーターへのステップアップとして、サポーターに進行役を担ってもらう。その際は、今年度作成した標準的な活動案を活用する。 ・熊本県の地域日本語教育推進事業との連携(オンラインでの初級日本語教室の活用)

本件担当： 八代市役所国際課政策推進係